

公演スケジュール

チケットは六花亭各店で発売いたします

入場料 各4,000円 または六花亭ポイント400ポイント (税込/学生各2,000円)

- ・秋のフェスティバル2日通し券 6,000円 (または 600P)、3日通し券 9,000円 (または 900P)、10月7・8日通し券 6,000円 (または 600P)
- ・公演内容が変わる場合がございます。あらかじめご了承ください。
- ・チケットの発売状況につきましては六花亭フリーダイヤル、またはホームページでご確認ください。

2017年9月1日(金) 午後7時開演 ふきのとうホール秋のフェスティバル プラハへの旅 第1日

2017年9月2日(土) 午後4時開演 ふきのとうホール秋のフェスティバル プラハへの旅 第2日

2017年9月3日(日) 午後4時開演 ふきのとうホール秋のフェスティバル プラハへの旅 第3日

2017年9月22日(金) 午後7時開演 **工藤重典 フルトリサイタル** 7月21日(金)発売

〈出演〉工藤重典 (フルート)、リチャード・シーゲル (チェンバロ)

2017年10月7日(土) 午後4時開演 ふきのとうホール レジデンスアンサンブル
8日(日) 午後4時開演 **ゼッパールトリオ Vol.5・6** 8月5日(土)発売

〈出演〉村田千佳 (ピアノ)、山田麻実 (ヴァイオリン)、さやかセリーナ (チェロ)

2017年10月20日(金) 午後7時開演 **白井光子 ドイツ歌曲をうたう** 8月18日(金)発売

〈出演〉白井光子 (メゾ・ソプラノ)、ハルトムート・ヘル (ピアノ)

2017年11月3日(金・祝) 午後4時開演 **シャイ・ウォスナー ピアノリサイタル** 9月1日(金)発売

〈出演〉シャイ・ウォスナー (ピアノ)

2017年11月25日(土) 午後4時開演 古楽アンサンブル **アントネッロ演奏会** 9月22日(金)発売

〈出演〉濱田芳通 (リコーダー&コルネット)、石川かおり (ヴィオラ・ダ・ガンバ)、西山まりえ (チェンバロ&ヒストリカル・ハープ)

2017年12月8日(金) 午後7時開演 **クアルテット・エクセルシオ演奏会** 10月7日(土)発売

〈出演〉西野ゆか (ヴァイオリン)、山田百子 (ヴァイオリン)、吉田有紀子 (ヴィオラ)、大友肇 (チェロ)

2017年12月23日(土・祝) 午後6時開演 **HBC少年少女合唱団クリスマス公演** 10月20日(金)発売

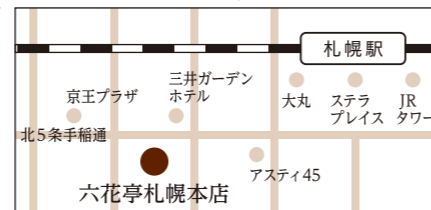
〈チケット料金〉1,000円 (税込) 〈出演〉HBC少年少女合唱団 (シニアクラス)

〈2017年7月4日現在〉

ふきのとうホール

札幌市中央区北4条西6丁目3-3 六花亭札幌本店 6階

- ・札幌駅南口から徒歩5分。駐車場はございません。・お問い合わせは ☎ 0120-12-6666 まで。
- ・チケットは六花亭各店、またはホームページでご購入いただけます。 <http://www.rokkatei.co.jp>



コンサート開演前、終演後のお食事は六花亭札幌本店9階でいかがですか? お電話でご予約の上、お越し下さいませ。

鮭の田なべ

営業時間/平日 17:00~21:30 最終入店 (祝日営業 17:00~20:00 最終入店)
定休日/日曜日 011-219-2202

モリエールカフェ 降っても晴れても

営業時間/11:00~16:00 17:30~20:00
定休日/水曜日 011-221-2000

ふきのとうホール

秋のフェスティバル 2017 プラハへの旅

第1日 9月1日(金)

ヨゼフ・スークピアノ四重奏団/
パノハ弦楽四重奏団

第2日 9月2日(土)

ヨゼフ・スークピアノ四重奏団/
パノハ弦楽四重奏団/中嶋彰子

第3日 9月3日(日)

パノハ弦楽四重奏団/
スークピアノ四重奏団/小山実稚恵

入場料 各4,000円

または六花亭ポイント400P
(税込・全席指定・学生各2,000円)

2日通し券 6,000円 または 600P

3日通し券 9,000円 または 900P

チケットは六花亭各店で発売中



パノハ弦楽四重奏団 Panocha Quartet

イルジー・パノハ Jiří Panocha (ヴァイオリン)
 パヴェル・ゼイファルト Pavel Zejfart (ヴァイオリン)
 ミロスラフ・セフノウトカ Miroslav Sehnoutka (ヴィオラ)
 ヤロスラフ・クールハン Jaroslav Kulhan (チェロ)

パノハ弦楽四重奏団はチェコの誇る、代表的なカルテットのひとつである。第1ヴァイオリンはイルジー・パノハ、第2ヴァイオリンはパヴェル・ゼイファルト、ヴィオラはミロスラフ・セフノウトカ、チェロはヤロスラフ・クールハンという顔触れで、1971年に正式に活動をスタートした。世界的な有力カルテットの多くと同様、切れ味の良いアンサンブルが特色であるが、その響きには現代風の冷たいタッチとは一線を画する、ボヘミア独特の、言葉では表しきれないしなやかな感触があるのが大きな特徴である。彼らの最初の成功は、75年プラハでの国際弦楽四重奏コンクールにおいて栄誉ある第1位を受けたことであった。76年にはボルドーで金メダル、1982年にはスプラフオンのゴールド・ディスクを受賞している。83年にはマルティヌーの弦楽四重奏曲第4番、第6番の録音に対してパリでアカデミー・シャルル・クロの大賞を受賞している。特にドヴォルジャーク、スメタナ、マルティヌー、ヤナーチェク等のチェコの音楽に重点をおいて活動をしているが、広範囲にわたる彼らのレパートリーにはヨーゼフ・ハイドンなどのウィーン古典派も含まれる。

第1日 9月1日(金) 午後7時開演

A.ドヴォルザーク：小品集(弦楽三重奏のためのミニアチュール) op.75a パノハ弦楽四重奏団

A.ドヴォルザーク：ピアノ四重奏曲 第2番 変ホ長調 op.87 ヨゼフ・スークピアノ四重奏団

B.スメタナ：弦楽四重奏曲 第1番 ホ短調「我が生涯より」 パノハ弦楽四重奏団



ヨゼフ・スークピアノ四重奏団 Josef Suk Piano Quartet

ヴァーツラフ・マーハ Václav Mácha (ピアノ)
 ラディム・クレスト Radim Kresta (ヴァイオリン)
 エヴァ・クレストヴァ Eva Krestová (ヴィオラ)
 ヴァーツラフ・ペトル Václav Petr (チェロ)

チェコを代表する作曲家、ヨゼフ・スークからその名をとったヨゼフ・スークピアノ四重奏団はヴァイオリンのラディム・クレスト、チェロのヴァーツラフ・ペトル、ピアノのヴァーツラフ・マーハによって2007年に結成されたタラス・ピアノ三重奏団のメンバーにヴィオラのエヴァ・クレストヴァを迎えて2014年に結成。(エヴァ・クレストヴァ(旧姓カロヴァー)は2008年から2012年までパヴェル・ハース四重奏団の第2ヴァイオリンをつとめ、当団ではヴィオラ奏者として活躍。)ヨゼフ・スークピアノ四重奏団のレパートリーはブラームス、ドヴォルザーク、スーク、マルティヌーから現代作品まで幅広く演奏・録音活動している。

第2日 9月2日(土) 午後4時開演

J.スーク：ピアノ四重奏曲 第1番 イ短調 op.1 ヨゼフ・スークピアノ四重奏団

A.ドヴォルザーク：ジプシーの歌 op.55 中嶋彰子(ソプラノ)、V.マーハ(ピアノ)
 歌劇「ルサルカ」op.114 より「月に寄せる歌、」

A.ドヴォルザーク：弦楽六重奏曲 イ長調 op.48 パノハ弦楽四重奏団+スークピアノ四重奏団



中嶋 彰子 Akiko Nakajima (ソプラノ)

北海道生まれ。1990年、全豪オペラ・コンクールで優勝し、同年、シドニーとメルボルン、両オペラハウスでオペラ・デビューを果たす。92年、イタリア・ナポリのサン・カルロ歌劇場で欧州デビュー。同年、ヘンデルのオペラ『アルチーナ』が欧州放送連合より最優秀賞を受賞する。99年よりウィーン・フォルクス・オーパーの専属歌手となりトップスターとして活躍。日本本格デビューは、99年シャルル・デュトフ指揮/NHK交響楽団のフォーレ「レクイエム」。2012年からプロデュースや演出にもジャンルを広げ、幅広い文化活動を展開している。2016年には中嶋彰子プロデュース & 出演の舞台作品「夢幻能 - 月に憑かれたピエロ」がシオン国際音楽祭で初の海外公演を迎え、各方面から高い評価を得、海外の音楽祭での再演が期待されている。2017年には、東京、金沢、高崎、大阪で上演された全国共同制作プロジェクトのオペラ『蝶々夫人』にタイトルロールで出演。第14回「出光音楽賞」受賞。モーツァルトハウス・ウィーン、アーティスティック・アドバイザー。2017年9月よりウィーン私立音楽大学(MUK)舞台芸術学部声楽・オペラ科独唱専攻の教授に就任。群馬オペラアカデミー「農楽塾(のうらじゅく)」総監督。ぐんま観光大使。ホームページ：www.akikonakajima.org

第3日 9月3日(日) 午後4時開演

L.ヤナーチェク：おとぎ話 V.ペトル(チェロ)、V.マーハ(ピアノ)

L.ヤナーチェク：弦楽四重奏曲 第1番 ホ短調「クロイツェルソナタ」 パノハ弦楽四重奏団

A.ドヴォルザーク：ピアノ五重奏曲 イ長調 op.81 小山実稚恵(ピアノ)、パノハ弦楽四重奏団



小山 実稚恵 Michie Koyama (ピアノ)

人気・実力ともに日本を代表するピアニスト。チャイコフスキー国際コンクール、シヨパン国際ピアノコンクールの二大コンクールに入賞以来、今日に至るまで、コンチェルト、リサイタル、室内楽と、常に第一線で活躍し続けている。全国6都市にて行われている「12年間・24回リサイタル・シリーズ」が、本年いよいよ12年目を迎える。これまでに国内の主要オーケストラはもとより、チャイコフスキー・シンフォニー・オーケストラ、ロイヤル・フィル、BBC響、シンフォニア・ヴァルソヴィアなどと共演しており、フェドセーエフ、小澤征爾といった国際的指揮者との共演も数多い。2011年の東日本大震災以降、被災地で演奏を行っており、2015年より自ら企画立案したプロジェクトが、仙台においてスタートした。CDは、ソニーと専属契約を結んでおり、最新盤は、30枚目の『バッハ：ゴルトベルク変奏曲』。また、はじめての著書となる『点と魂と—スイートスポットを探して』が、KADOKAWAより出版された。これまで、2005年度文化庁芸術祭大賞、2013年度東燃ゼネラル音楽賞本賞ならびにレコード・アカデミー賞、2015年度文化庁芸術祭優秀賞ならびに第28回ミュージック・ペンクラブ音楽賞、2016年度芸術選奨文部科学大臣賞を受賞している。

